

東京新橋ロータリークラブ会長賞

水は天然のタイムカプセル

高陵中学校 二年 石崎里瑠葉

私の祖母が住んでいる富山県は水が豊富な土地です。立山連峰などの三千メートル級の山が連なる「北アルプス」、そして富山湾の最深部は一千メートル以上。山頂から海底まで近いところでわずかに二キロメートルほどしかなく、高低差は四千メートルを越えます。この地形をたくさんの方が旅をするのです。毎年立山には十月ごろから雪が降り六十メートルも積もりますが、近年夏になっても解けない「長さ八百メートル、幅二百メートル、厚さ最大三十メートルの万年雪」が国内初の氷河として発見されました。氷河はただの水ではなく、雪にとってもない圧力をかけられ何万年もの間押し固められ続けた氷です。つまり氷河のもとになった雪が降った時の空気が閉じ込められていたことになりました。氷の中に古代の空気や様々な物質が含まれているので、まさに「タイムカプセル」として過去の日本の気候や環境などを調べることができる氷なのです。氷河といえば地球温暖化の進行を測る「バロメーター」とも言われています。この立山連峰の氷河は小さく、アジアでは最も南にあります。特に気温の変化の影響を受けやすい場所に位置するため、この氷河を観測していくことで「地球温暖化のバロメーター」としての役割を果たすと期待されているそうです。しかし逆に言うと、地球温暖化が進み立山の温度が上昇してしまうと真先に影響が出て、溶けてなくなってしまう場所でもあるのです。

さて、この氷河を持つ北アルプスの雪解け水はとても急流奈黒部川を下り、とても深く岸のようになっている深海へと流れ込みます。

またそれとは別に地下水となり、扇状地に湧き水となって出てきます。現地の人はこの湧き水のことを「清水（しようず）」と呼び、生活に欠かせない水として大切にしているのです。私はいつも富山に帰省いた時、祖母と車に大きなタンクを積み、汲みに行きます。水は冷たくてとてもおいしいので、私は大好きです。この湧き水は山と海が近い富山の地形のため、海にも湧き出ているそうです。実はこの湧き水はひいおばあちゃんの家から歩いて数分のところにある埋没林館に展示している木の根っことても関係があるのです。この埋没林はただの木の根っこではなく、天然記念物で、海の中から見つかったという不思議で貴重な約一万年前のスギの原生林の根っこだからです。約一万年前の日

本は縄文時代。この森林は原生林のまま海に沈み込み、根っこを真水である湧き水が包み込んでいたため、海水の中でも腐らないでそのままの姿で残っていたのです。この海底に湧き出す冷たい立山の雪解け水が守っていたから、根っこと一緒に種子や花粉、昆虫などは残っていて、これも立山の氷河と同じように過去の環境を推定する大きな手掛かりとなるのです。しかし、この埋没林が死んだ理由はなんと、地球温暖化による海面の上昇。縄文時代に原生林がそのまま沈んでしまうほど急激に地球温暖化が進んだということです。氷河を抱える北アルプスから流れる冷たく豊富な湧き水と海面上昇により死んでしまった埋没林は、私たちに地球温暖化の脅威を伝えようとここに存在しているのではないか、と思ってしまう。

この埋没林館は蜃気楼のよく見える場所です。春に北アルプスの雪解け水が富山湾に流れ込み、海の底から湧き水が湧き出ることと海水を冷やし、暖かい空気との温度差により蜃気楼が出現します。その姿はとても幻想的な風景です。それも温暖化で沈んだ街にならないように私たちに教えてくれているような気がします。